

## 事業の背景・目的

祇園祭の厄除け粽、京料理や京菓子などに利用されてきた京都市北部山間地域に自生するチマキザサ。2000年代当初に起こった数十年に一度という一斉開花ののち、鹿の食害によりササが育たないという現状に直面した。これを解決すべく、地域・関係団体・大学・行政等が協力して防鹿柵を設置するなどし、チマキザサを象徴とする地域の生態系の再生、保全に取り組んでいる。今後、流通の復活など経済的な循環の創出を図りつつ、消費地を巻き込みながら、新たな森-里-都市のつながり（地域資源【自然・人材・資金】の循環）を生み出し、京都の文化の継承・発展を目指していく。

## 事業の内容

### 事業①【チマキザサ再生環境整備事業】

- ・天狗杉保護区でチマキザサ約7万枚を収穫したほか、環境整備を行い、採取効率の向上及び作業の安全確保を実施
- ・再生が進んでいない保護区内での移植及び支障木の撤去等を実施
- ・全ての保護区/実験区の総点検を行い、チマキザサの保全状況及び防鹿柵の管理状況を把握



### 事業②【担い手確保及び技術継承支援事業】

- ・地域住民や地元の担い手等を対象としたWSを実施（13名参加）
- ・ササ採取・運搬及び加工・選別のボランティアに計23名参加

### 事業③【チマキザサ流通促進事業】

- ・担い手組織と事業者等とのマッチング支援を行い、事業者4社に対しササの初出荷を実施



### 事業④【普及啓発事業】

- ・京都市生物多様性ポータルサイト「京・生きものミュージアム」にチマキザサ再生活動に関する専用のページを作成し、活動状況等を発信

## 得られた成果

- ・今年度、約15年ぶりに京都市北部山間地域（花脊別所）産チマキザサの初出荷（約5万枚）に至った。一斉開花前の平均的な出荷量（約930万枚/年）の0.5%という状況であるものの、着実に再生は進んでおり、より一層の再生及び収穫高の向上を図っていく。
- ・消費地からの人的支援の一環として、ボランティア等を募集。計27名の参加を得ることができた。より多くのボランティアに参画していただけるよう、受入体制などの充実を地域とともに図っていく。
- ・メンテナンスや状況把握が不足していた防鹿柵について、状況を確認し、破損箇所（3箇所）を修繕した。
- ・NHK「おはよう関西」等で取り上げられる（11/30）など、取組への興味・関心の高まりを感じており、今後、取組の継続性の観点からも、事業者等からの寄附金の受入体制等を検討していく。

